

令和6年度 第1回 佐久市立近代美術館協議会 議事録

日 時 令和6年7月26日（金）午後3時00分～午後4時30分

場 所 佐久市立近代美術館 視聴覚室

出席者 教育長（途中退席）、委員8名（欠席2名、途中退出1名）、  
事務局5名

1 開会（事務長）

2 あいさつ（教育長）

3 会議事項

進行：武重会長

（1）令和6年度事業報告について

事務局：（1）説明

委 員：来館者の鑑賞方法はコロナ禍前後で何か変化はあったか。

事務局：コロナ禍ではマスクをして人と距離を取ることが一般的だった。そうした中で美術館に来ていた方は、美術に関心が高く、美術や文化的なものとの触れ合いを求めている方が多かったため、ゆっくりと鑑賞していた印象がある。

委 員：対話型鑑賞の事業が増えているが、コロナ禍が明けたからこそ、良い取り組みだと思う。

事務局：対話型鑑賞に関して、参加者の子どもを見ていると元気いっぱいに話し始める。体も色々動かし、床に座って作品を鑑賞するなど、活動的なシーンが見られた。子どもの視点が私の視点とは異なっており、話してもらおうということが大切だと感じた。できるようになったのは新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてきたからだと思う。

委 員：人数には直結していないかもしれないが、こうしたイベントには文化的な意義があるのではないかと思う。

(2) 令和7年度以降の事業について

(3) その他

ア 報告事項

・「佐久市立近代美術館」再整備に関する市民アンケート調査について

事務局：(2) 及び(3)のア 報告事項のうち『佐久市立近代美術館』再整備に関する市民アンケート調査について」説明

委員：市民アンケートはどれくらいの規模で考えているのか。

事務局：無作為選出で1,000人を考えている。対象は15歳以上の予定である。

事務局：(委員の皆さんに事前に送付した) アンケートを行った感想があれば話してほしい。私の場合は23分かかった。平均的には10分くらいかと思う。

委員：再整備の部分が重要だと思う。美術館の大きさや方針はまだ定まっていないと思うが、例えばもう少しコンパクトにするなど方向性は定まっているのか。

事務局：個別施設計画でいけば、基本は美術館のリニューアルである。しかし、現在方針は何もない状態であり、アンケートを実施し、その後基本構想を策定する予定である。基本構想は皆さまの意見を踏まえ、理想とする美術館像を含める。基本構想の中に、場所をどこにするか、規模をどうするかといった具体的なことを含められると良いが、書けない場合もあると思う。そういう場合も、どういう美術館を作りたいからこうした方が良いといった指標となるようなものを含められると良いと思っている。

委員：ワークショップの意見も基本構想に反映される可能性があるということだろうか。複合施設になるとか。アンケートやワークショップから色々な意見を抽出して、反映されると良い。

委員：アンケートは来館者に対してもお願いすることはできるのか。私たちのような興味のある方が回答して下さるような内容だと思う。無作為の場合、興味のない方のところにアンケートがわたると「まあいいや」と

いう感じになってしまい、残念な結果になってしまう可能性がある。そのため、来館者やトークセッションに参加した方などに積極的に回答していただくと、良い結果が得られるのではないかと思う。

事務局：興味を持って積極的に回答していただければ、それは良い意見が得られると思う。興味を持っている方々にもアンケートを回答していただくことは考えている。無作為抽出とあわせて、同じアンケートを双方で実施する。しかし、集計は別々に行う予定である。興味のある方の意見も取り入れていければと思っている。

委員：実際にアンケートに回答してみたが、後半の部分が重要になってくる。一般の方に出すアンケートとしては今回の内容が無難かもしれないが、実際に意見を言いたい人にとっては後半が重要である。スケジュールを見ると、このアンケートをもとに事業が始まると思うが、以前の長野県立美術館リニューアルの際には各地で意見を聞く会があった。新しい館長が来て色々意見を聞いてくれたが、結果的にはあまり反映されていなかった。実際に（展覧会場として）使用してみると不満が生じる部分もある。実際に展覧会を開催する人たちは希望がたくさんある。美術館の再整備は良いチャンスだと思っているが、今意見を言わないと実現しないのであれば、ちゃんとした意見を持った人から意見を聞く会を設けて欲しい。

事務局：相談はしていないが、考えていることがある。例えば横須賀美術館は何年か前に開館したが、そこには市民の意見が上手く反映されている。太田市美術館・図書館も市民の意見が反映され、当初の計画から大きく変わり、現在のかたちとなった。そういった館に私たちも視察に行ったりしているが、基本構想に反映できるタイミングで行えればと思っている。全部の意見を反映させるのは無理だが美術館の方針や事業内容、特徴をきちんと理解してもらったうえで意見を取り入れるようにしていきたい。

委員：「令和5年度 近代美術館 事業報告」の「(4) 開催展覧会」の部分を見ると、目標観覧者数と実際の観覧者数に差があるが、「佐久平の美術展」や「佐久市児童生徒美術展」といった参加型の展覧会は目標観覧者数を上回ったりしている。コレクション展や企画展も大事だと思うが、これからの再整備はチャンスになると思う。若い方たちにも意見を聞

く会に参加してもらい、幅広い年齢層がワクワクするような美術館を目指してほしい。

委員：公募展と企画展を同時期に開催することは可能なのか。そうしたら人が集まるのではないか。対応は大変だと思うが。

事務局：佐久市立近代美術館条例で観覧料が有料と定められている。

委員：片方が無料で、もう片方が有料ということか。

事務局：これが悩みどころであり、過去には色々と試したことがある。

委員：階ごとに分けてみてはどうか。ついでに観覧する人も増えるのではないか。

委員：参加型にすると、見るだけではなくなる。「佐久市児童生徒美術展」の観覧者数はすごい。子どもの作品があると親どころか家族、学校単位で見に来るかも知れない。

委員：確かに同時に開催すれば、相乗効果で企画展やコレクション展も見てもらえると思う。

委員：企画展の部分で、予算がないとのことだが、何が変われば予算がもらえるのか。美術館は大切なはずだが。

事務局：何が変わっても予算は減らすように言われる。現在、普通の館と比較すると半分以下の予算で運営している。その上、さらに半分にするように言われる。我々としては、今有料で展覧会を開催しているため、微々たるものだと思うが来館者数を増やさなければと思っている。現在、大学生以下の来館者数が少なく、それ以外の年齢の方が多い。そのため、若い方たちにきてもらうようにしなければならぬと思っており、団体の来館者数を増やすため学校にアプローチしている。

委員：高崎に白井屋ホテルという場所がある。そこは元々ボロボロのホテルだったが、変わった。横にはアーツ前橋があり、奥にはギャラリーがある。アンケートは市民に対して実施すると思うが、例えば民間企業との複

合化を図る場合に、企業に対してアンケートを実施するにはどのようなステップが必要なのか。また市として可能なのか。民間企業が入ってくるにはどうしたら良いのか。

事務局：まずは予算の部分で訂正したい。予算全体を減らすよう言われているわけではなく、例えば美術資料の修復事業などではクラウドファンディングもそうだが、建て替えに関しても工夫をしてなるべく予算を抑えて実施できる手法を考えるようにというものであり、全体の半分という意図ではない。

民間企業の件に関して、詳しく調べているわけではないが、自治体であっても民間企業を引き込んでいくとすることができるような手法にはなってきた。それは段階があり、できたものを任せるという指定管理者制度や企画段階から委託するというもの、建物を一緒に建ててその中で場所を分けて運営していくというもの、様々な形態がある。そうした手法もでてきているため、民間企業の導入も可能ではある。しかし、どのような手段でという具体的な部分に関しては、現状はまだ答えられない。しかし、そうした手段も含めて計画していくことは可能である。

事務局：現在は文化庁もそうした事例を紹介している。今まで自治体は、自治体に集まったお金で事業を実施し、民間企業とのコラボレーションはなかったが、これから勉強していくところだと思う。

委員：基本設計が令和9年を予定しているが、民間企業に大金をもらって一緒にやるということになれば今から考えていく必要がある。

委員：少し事例が異なるかも知れないが、中込公民館とくろさわ病院が併設されている。あれはどう実現したのか。くろさわ病院が入っているのか、それともくろさわ病院に入っているのか。

事務局：中込会館という建物があり、そこにくろさわ病院が入っている。建物をどちらが建てたかという部分までは把握していない。

委員：もし、こうしたことが可能なのであれば、民間企業の協力も可能ということか。そうした事例も参考にしてみてもどうか。

委員：話をする機会などを設ければ、協力してくれる民間企業が見つかるかもしれない。違うジャンルの人たちを集める会を催しても良いかも知れない。

事務局：くろさわ病院と中込会館の場合には交付金もしくは補助金があったと思う。一つの建物の中に民間企業と公共施設が入るということ自体は可能なため、今後詳しく調べていきたい。

委員：美術館のリニューアルに関して、駒場公園自体のリニューアルの話を聞いたことがあるが、現在の美術館の範囲でリニューアルするのか、あるいは増築できるのかどちらか。

事務局：公園全体をリニューアルするという話は聞いていない。創造館に関する議題があるのは知っている。それと連動させていった方が良いところはあると思うが、創造館の動きについては先が見えない部分があり、現段階で一緒に再整備していくという話はない。しかし、時期が同じになってくれば協力するということもあり得ないのではないかと考えている。個別施設計画では「周辺施設の動向も注視し、他施設との複合化の検討も行います」という表現になっている。どのような形になるのかということよりも、基本構想を策定するにあたって、どのような美術館にしたいかという意見を集めたいと思っている。

委員：希望があれば増築できるのか。建物がこのまま変わらないのであれば、リニューアルしても中途半端だと思う。

事務局：計画の中にはリニューアルとあるものの、どうなるのかということはまだ決まっていない。どのような美術館を目指したいのかということの基本構想に盛り込みたいと思っている。

委員：可能性はあるということか。

事務局：可能性がないわけではない。

委員：予算は？

事務局：先ほど申し上げた通り、病院や公民館の場合は何らかの交付金があったりするが、文化施設や美術館の場合は当てはまる交付金や補助金がないとい

う現状がある。

委員：アンケートに対する回答は、反映される可能性はあるのか。

事務局：可能性はある。例えば美術館は要らないという回答が多く出てきた場合には方向性が変わるかも知れないが。

委員：無作為の1,000人は怖いですね。美術館がなくなったら悲しいですね。

事務局：現在、確定している条件がない。駒場公園も再整備をする可能性があると言いながらも、どこがどう変わるのか、それぞれの立場で意見が出ている状態で、美術館も同じである。美術館として言えば、博物館法が改正になり、世界博物館会議の中で博物館（美術館）の定義も変わってきている。それは、展覧会を開催するだけでなく、色々なことを市民のみなさんとやっていくということが謳われており、今はそこに移行していく時期である。今までの感覚でやりたいことを挙げていくと、昔のままになってしまう。新しいことはこれからやっていくため、具体的に見えていないところがあり、方向を決めていくのが大変である。今みなさんの話を聞いていて、美術館があるべき姿というのを、当館の職員だけでなく、市民や関心を持っている人に共有しながら、方向を考えるにあたって手がかりになるもの、ここだけは押さえてこういう方針にしようという出発点となるものを作らなければならないと思っている。

委員：基本構想・基本計画策定委員会のメンバーは決まっているのか。

事務局：今現在は決まっていない。事務局案として、個人名が決まっているわけではないが、ジャンルとして考えていることはある。美術家、建築家、美術年鑑社、福祉の関係、経営の関係、佐久地域の方など。

委員：基本構想・基本計画策定委員会が主となって、基本構想や基本計画を決めていくということになるのか。

事務局：構想の中に、アンケートはこうだった、こういう意見があったということは反映させていく。

委員：美術館協議会と兼任はできないのか。

事務局：兼任はできる。

アンケートのほかにワークショップを行い、市民の意向を確認しながら進めていく。

委員：みなさんが言っているように、アンケートやワークショップについては、市民や専門家に早い段階で共有していくと良い。

委員：小学校という立場から発言したい。今話を聞いていて、良い機会なので、この機会を大事にしたいと思った。小学生や幼稚園児、保育園児などは絵を描くのが大好きである。同時に、友だちの絵を見ることも大好きである。それが大前提としてある。しかし、その子たちが美術館とどう繋がっていくのか。大人になったときに美術館に行かないという現実もある。そこを繋いでいく方法を考えることが、今後の美術館について考える上で大事だと思う。

美術館の立場としては美術館に足を運んでもらうことが大事かも知れないが、学校としては、美術館ってこういうところだよ、こういう良いところがあるんだよということを伝えたい。そのために、クラスや学年で美術館に行くということを進めていきたいと考えている。しかし、同時に30人、あるいは2クラス60人という規模で美術館に行くというのは、イレギュラーなかたちだと思う。美術館の中で子どもたちが自由に絵を見て自由な時間を過ごし、絵っていいな、美術館っていいなと思ってもらおうということをやっつけていかなくてはならない。

そう考えると、学校から団体で見学するというものを行う傍ら、それ以上におうちの方々に一緒に行っていただくことがとても重要になってくると思う。そうした意味で、アンケートの問12～15が大事だと思う。

子どもたちは自分だけでは美術館に行けない。例えば小学生が学校で美術館に行っていていいなと思っても子供たちだけでは美術館に行けないため、おうちの方に一緒に行ってもらわなくてはならない。美術館にしても駒場公園にしても、おうちの方と一緒にいきたいような仕組みが必要。例えば駒場公園に行き、そこで子どもたちが美術館に行ってみようとなり、大人も一緒に入る。そういうかたちが取れるのが良いし、そういう仕組みができてくると将来美術館に来てくれる子どもたちが増えてくる。美術館の建物だけでなく、そうした方法を考えて欲しい。

美術館に興味のある方と興味のない方、今まで興味がなかった方をどう美術館に繋げていくのかということを考えて欲しい。学校もぜひ一緒

にやっっていければと思っている。子どもたちが行きたくなるような美術館という視点も大事にしていきたい。

委員：みなさんの話を聞いていると、やはりアンケートの間 12～15 が重要だと感じる。アンケートの順番もこれを最初にし、回答者の勢いがあるうちに意見を吸い上げ、最後に年齢などを回答してもらうようにした方が良いかもしれない。  
アフタースクールがあると良いかも知れない。そしたら親も来る。

事務局：本日いただいた意見を参考にしつつ、アンケート作成に関しては事務局で進めていきたいと思う。

### (3) その他

#### ア 報告事項

- ・令和6年度佐久市立近代美術館が目指すこと

事務局：ア 説明

#### イ 連絡事項

- ・第2回協議会の日程について

事務局：イ 説明